

権力への告訴路線をつきすすむ動労本部



81.8.9
全国版
No. 92

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六・公衆電話(22)七二〇七

今こそ動労大改革運動を二層推し進めよう

全国の動労組合員の皆さん。闘う仲間の皆さん。

動労千葉は、去る七月十五日、津田沼支部の六名の仲間が動労「本部」反動分子のデッチ上げ告訴によって不当逮捕されて以降、津田沼支部を先頭に一三〇〇組合員の総決起の闘いをもって、ついに、七月三十一日、六名の仲間全員を完全黙秘のままわれわれの手に奪還しました。わが動労千葉一三〇〇組合員は、「権力の謀略」「反ファッショ統一戦線」などと空文句を叫びつつ、実は、国鉄35万人体制に屈服し、あるいは、デッチ上げ「暴力事件」をもってわが動労千葉の仲間を告訴・告発し売り渡すという労働組合にあるまじき悪辣非道な告訴路線をつきすすむ動労「本部」反動分子に対するにえたぎる怒りに燃えています。全国の動労組合員の皆さん。闘う仲間の皆さん。闘う動労の伝統を汚す動労「本部」反動分子一掃追放にむかって、動労大改革運動を全国の職場から巻き起こそうではありませんか。

「むかし鉄労・いま動労」の実態

- ① 国鉄当局に厳正な職場規律の確立を要求します。
- ② 告訴・告発の徹底と法的制裁の強化を要求します。
- ③ 本社ならびに各地方局に対し、職場の実態調査を要求します。

これは、今から九年前(一九七二年十月)のマル生運動の先兵である鉄労第五回全国大会の運動方針です。

今日、この鉄労の運動方針を見たとき、動労「本部」反動分子の「方針」が全く同じものであることにおどろきといきどおりをおさえることが出来ません。

当時、国労・動労、とりわけ動労は、全国的に当局・鉄労一体となったデッチ上げ「暴力事件」によって、相つぐ告訴・告発を受け、不当逮捕攻撃と対決しつつ勝利した貴重な経験と歴史を持っています。

ところが今はどうでしょうか。

- ① 当局の職場管理体制に欠陥がある。
- ② 千葉動労をいったいどのように考えているのか。
- ③ 「6・12津田沼暴力事件」をデッチ上げ十名の仲間を権力に告訴・告発。

など、マル生時の鉄労と寸分たがわぬ反労働者の方針を実践しているのです。

相つぐ脱退で動揺する動労「本部」派

このように、告訴路線をつきすすむ動労「本部」に対し、わが動労千葉は、不当逮捕された六名の仲間の即時奪還・動労「本部」反動分子糾弾の闘



No. 92

いを連日展開し、今日、大きな成果をかちとっています。

特に、津田沼支部では動労「本部」の「職場管理体制の強化」の要請をチャンスとばかりに、当局職制が時計を見ながら活動家をつけまわり、出勤、食事時間の厳正を強化しようとしてやっきたっています。こうした中で、仙台・盛岡局より帰任した予科生のうち、動労「本部」にのこっていた二人が、「もう『本部』には入れない」としてついに八月五日付で動労「本部」に脱退届を提出しました。さらに、転び屋・嶋田誠に引きずられて「本部」派となっていた検修係のAは、「国鉄をやめたい」といいだし、七月中旬より「病欠」で休んでおり、嶋田自身も動労千葉・国労組合員からの激しい追及をのがれるために、職場に出ることが出来ず、「一日出勤しては、一週間の休み」をくりかえしている始末です。

動労「本部」反動分子が権力への告訴・告発、職場管理体制の強化を要求するなど労働組合の最後の一線を踏み越えたが故に、「連中さえないなければ……」と動労千葉・国労組合員を問わず、全ての職場労働者から「追放の対象」となってしまうているのです。

「反謀略・反権力・反ファッショ」「戦闘的・階級的労働運動」とか「あたり前の労働運動」などといくら声高に叫んでみても、現実には動労「本部」反動分子のやっていることは、全く逆に「権力への告訴・告発」「合理化屈服・当局とのゆ着」「暴力的組合運営」など数限りない反労働者の暴挙をつきつきと行なっているのです。

全国の動労組合員の皆さん、闘う仲間の皆さん、今こそ、「本部」反動分子一掃・追放・動労大改革に決起するときです。共に闘おう。